

高齢者をまもる 住宅火災の予防策



うるま市消防本部

目次

住宅火災を防ぐには	①
火災の現状	②
こんろ火災の注意点	③
たばこ火災の注意点	⑤
電気器具火災の注意点	⑥
放火火災の注意点	⑦
ストーブ火災の注意点	⑧
ロウ・灯ろうからの火災の注意点	⑨
その他の原因による火災の注意点	⑩
いざという時のために！	⑪
住宅防火いのちを守る7つのポイント	⑭
住宅防火診断	⑮
突然のこんな症状の時には119番!!	⑯
119番通報メモ	⑰



～ 住宅火災を防ぐには ～

- 一つ 高齢者は、避難が第一！
- 一つ 火災予防は一人一人の心がけ！
- 一つ ご家族やご近所の協力体制！
- 一つ 住宅用火災警報器の設置！
- 一つ 住宅用消火器の設置！
- 一つ 整理整頓で避難経路を確保！
- 一つ 家のまわりに燃えやすいもの
を置かない！



毎年多くの住宅火災が発生しています。

火災の発生を防ぐためのポイントや、もし火事になってしまった時の対処法を確認して、火災の被害を減らしましょう。

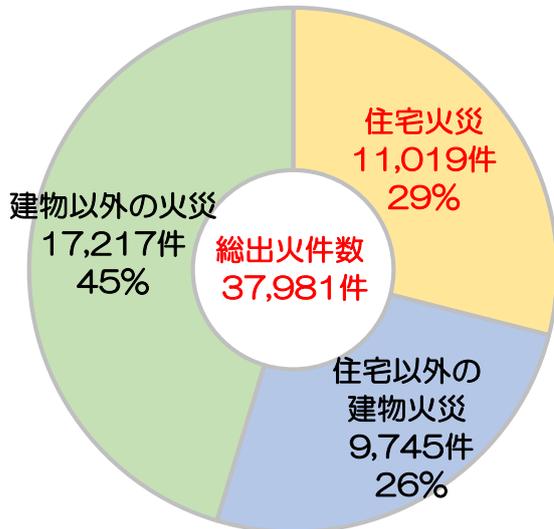
～ 火災の現状 ～

火災死者の約7割は住宅火災！

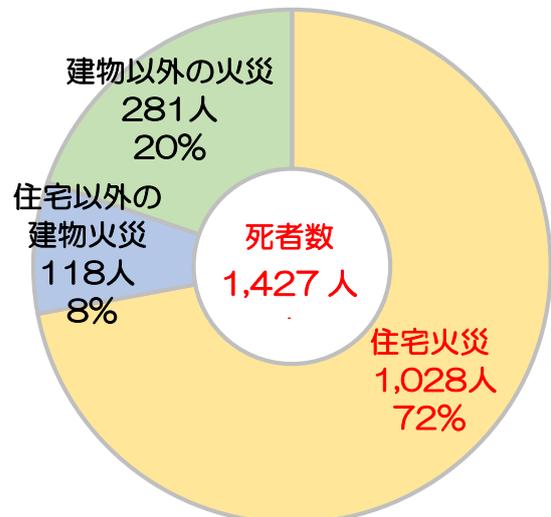
平成30年中の全国における住宅火災の件数は、総出火件数の3割ですが、住宅火災による死者数は総死者数の約7割を占めています。

65歳以上の高齢者が上記の死亡割合に占める割合は7割（平成30年中）で過半数を占めています。

平成30年中の火災件数

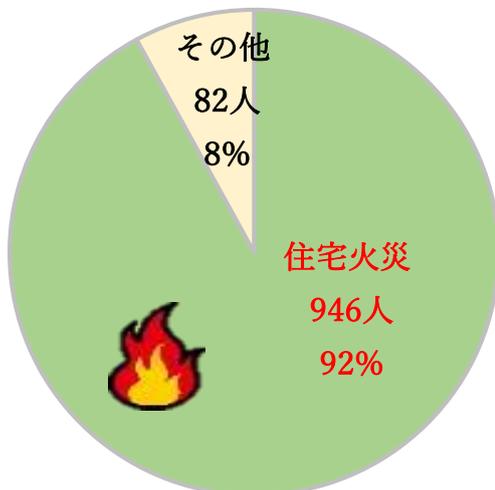


平成30年中の火災による死者数



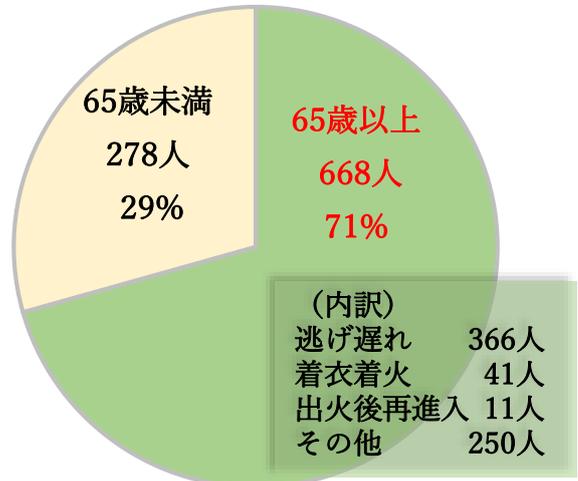
※放火を含むすべての火災

建物火災における死者の約9割が住宅火災



※放火自殺者等を含むすべての死者

住宅火災における死者の約7割が高齢者



① こんろ火災の注意点

こんろの使用時、その場を離れるときは、必ず火を消しましょう。



【事例】

- 天ぷらを揚げていたが、忘れてしまい別の用事をしていた。
- こんろを消したつもりが完全に消えておらず、天ぷら鍋から出火した。
- 揚げ物中に突然の来客に対応していて火事になった。
- グリル内に、魚等を焼いたときにたまった油に火がついた。



《火災予防のポイント》

- ガスこんろを使用時そばを離れるときは、必ず火を消しましょう。
- グリル内はこまめに手入れし、油かすなどをためないようにしましょう。
- 劣化しているガスホースを使用しない。
- 安全センサーの付いたS i センサーこんろを使用しましょう。

こんろのまわりには、燃えやすいものを置かないようにしましょう。



【事例】

- 湯を沸かしているのを忘れてしまい、こんろの横に置いていた布巾に燃え移った。
- 勘違いして、こんろに炊飯器を置き、こんろを点火させ出火した。



《火災予防のポイント》

- こんろまわりは、いつも整理整頓しましょう。
- こんろの付近にロールペーパーや布巾をかけないようにしましょう。
- こんろまわりに油をこぼしたら拭き取りましょう。

着衣（衣類）着火に気をつけましょう。



【事例】

- 袖の長い衣類や寝間着で調理中、こんろの炎が衣類に着火した。
- ガスこんろの奥にある調味料を取ろうとして、衣服に着火した。



《火災予防のポイント》

- カーテンや寝具など防災物品を使うように努めましょう。
- 調理する時は袖が広がった服を着ないようにしましょう。
- こんろの奥に調理道具や調味料を置かないようにしましょう。
- 鍋の底から炎がはみ出さないよう適切な火力に調整しましょう。

② たばこ火災の注意点

寝たばこは、絶対にやめましょう。



【事例】

- 薬やお酒を飲んだ後にたばこを吸いながら寝てしまった。
- たばこの火種が布団に落ちているのに気付かず、あとで布団から出火した。



《火災予防のポイント》

- 寝る前は、たばこが消えているか確認する習慣をつけましょう。
- 吸いかけのたばこの放置はやめましょう。
- 灰皿には、水をはって使いましょう。

吸い殻の処理に注意しましょう。



【事例】

- 吸殻を紙くずなどが入っているゴミ箱などにそのまま捨ててしまった。
- 灰皿がいっぱいになり、そのままゴミ箱に捨ててしまった。
- たばこの吸い殻や火種が落ちた布団をそのまま押入にしまった。

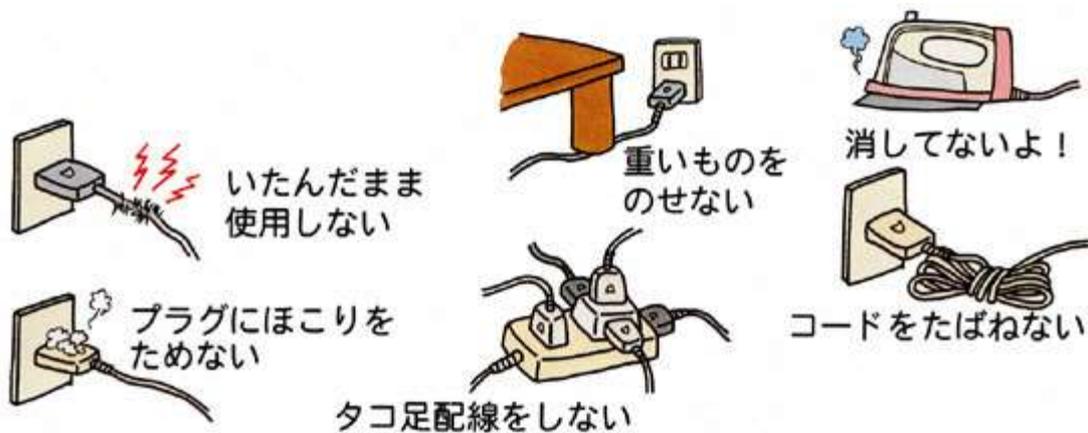


《火災予防のポイント》

- 吸い殻を捨てる前には、水で湿らせるなど、必ず確認をして捨てましょう。
- 灰皿に吸いがらをためないようにしましょう。
- 灰皿の周りに燃えやすい物を置かないようにしましょう。

③ 電気器具火災の注意点

コンセントや電気器具は正しく使いましょう。



【事例】

- たこ足配線により、コンセントから出火した。
- コードを束ねて使用していたら、そこから出火した。
- コンセントにホコリがたまっていて突然出火した。
- コードリールを巻いたまま使用していたらコードから出火した。



《火災予防のポイント》

- コードがカーペットや家具の下敷きにならないようにしましょう。
- コードを束ねたまま使用しないようにしましょう。
- たこ足配線をしないようにしましょう。
- コンセントやプラグのホコリをためないようにしましょう。
- 劣化が進んだ古い家電製品やコード、プラグを使用していない。
- 使わない電気器具はコンセントから抜きましょう。

④ 放火火災の注意点

日頃から放火対策を行いましょう。



【事例】

- 夜、家の前に置いてあったゴミに放火された。
- 家の横に置いてあった段ボールに放火された。
- 車のカバーに放火された。



《火災予防のポイント》

- 家の周りは整理整頓し、燃えやすい物は置かない。
- ごみは指定された日時・場所に出している。
- 家の周りに常夜灯や人感センサーライトを設置している。
- 物置、車庫は鍵をかけている。
- 共同住宅の廊下や階段に物を置かないよう管理している。

⑤ ストーブ火災の注意点

ストーブは燃えやすい物から離しましょう。



【事例】

- 布団のそばで電気ストーブ使用していて布団に着火した。
- 火をつけたまま給油して灯油に着火した。
- ストーブの上に洗濯物を干していたら洗濯物に着火した。
- ストーブの近くでスプレーを噴射したらガスに着火した。
- 調子の悪いストーブを使用していたら突然炎がでた。



《火災予防のポイント》

- ストーブを寝具、カーテン、家具などに近づけない。
- 給油は、必ずストーブの火を消してから行う。
- 部屋を離れるときは、ストーブを消す。
- 周囲に燃えやすいものやスプレー缶等を置かない。
- ストーブなどの調子が悪いときは、無理に使わず、修理に出すか、新しいものに取り換える。

⑥ ローソク・灯ろうからの火災の注意点

火の取り扱いに注意するとともに、目を離さないように気を付けましょう。



【事例】

- ローソクの火が服の袖についた。
- ローソクが倒れて、座布団に火がついた。
- カーテンが風にあおられて、ローソクや線香の火が燃え移った。

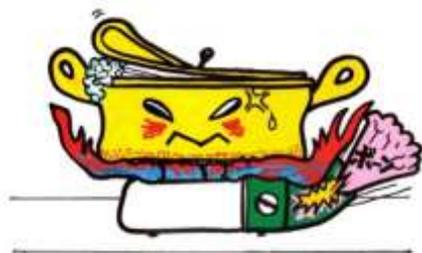


《火災予防のポイント》

- ローソクに火をつけるときは、仏壇の外で火をつけるなど、十分に気をつけましょう。
- 不安定なローソク立てを使用しない。
- ローソクや線香に火がついているときは、窓を閉めましょう。
- ローソクや線香の近くには燃えやすい物を置かない。

⑦ その他の原因による火災の注意点

カセットこんろとカセットボンベの使用に注意



カセットこんろを並べての使用禁止



大きな鍋などの使用禁止



目的外の使用禁止



【事例】

- カセットこんろで大きなフライパンを熱していたところ、突然ボンベが破裂し、カセットボンベのガスに火が引火して、火事になった。
- ガスこんろを使用して調理していたところ、横においていたガスボンベが熱により、破裂して、ガスに引火した。



《火災予防のポイント》

- 電磁調理器の上での使用、調理以外の目的で使用しない。
- こんろを覆うような大きな鍋や鉄板は使用しない。

モバイルバッテリーからの発火

【事例】

- モバイルバッテリーを床に落したら、割れて、突然出火した。
- モバイルバッテリーを充電していたところ、バッテリーが膨張して、破裂して出火した。



《火災予防のポイント》

- 電池が膨張したり、異音、異臭がしたら使用を中止しましょう。
- 最後まで充電できない、使用時間が短い、異常に熱くなる時は使用をやめ、メーカーや販売店に相談しましょう。
- 水濡れ注意や高熱の環境に放置しないようにしましょう。
- 必ず説明書を読んでから使用しましょう。

いざという時のために！

《119番通報の手順》

消防車や救急車を要請するときは、「住所」または「正確な場所」、目印になる建物などがわかれば、先に伝えましょう。

次に「何が燃えているか」、「逃げ遅れは？」、「ケガ人は？」などの情報を伝えましょう。

次のような内容で「通報メモ」を準備しておきましょう。



1 「火事ですか？」 「救急ですか？」

2 災害場所の住所や目印になる建物など

3 通報者の名前

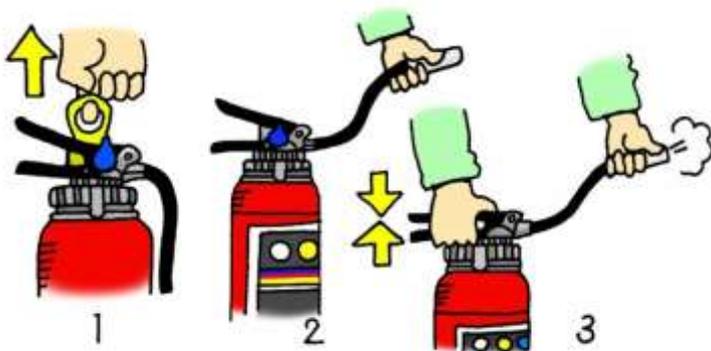
4 災害の状況

「何が燃えているか。」 「どこをケガしているのか。」 など

5 通報者の電話番号

※17 ページに「119番通報メモ」を添付しています。

《消火器の使い方》



1 安全栓を抜く。
(黄色いピン)

2 ホースを
火元へ向ける。

3 レバーを握る。

《避難時の心得》

■ 日頃から避難口を確保しましょう！

避難する経路は日頃から2つ以上決めておき、安全に避難できるようにしておきましょう。アパートなどでベランダに仕切板がある場合は壊して逃げましょう。また、日頃から避難はしごなどの避難器具の位置を確認し、出口には物を置かないようにしましょう。



■ 消火をあきらめて避難するタイミング！

炎が天井に届いたり、煙が多く発生している時は危険です！

消火をあきらめて、大声で周りに火事を知らせながら一刻も早く避難しましょう。



■ いったん避難したら絶対もどらない！

火災は時間とともに燃え広がり、煙も多くなって避難がとても難しくなります。

大事な物を忘れたからといって、いったん避難したら絶対に中へ戻ってはいけません。



《煙の性質》

煙は、横へ広がる時は1秒間に0.5m～0.8m、階段などを上昇する時は1秒間に3～5mと非常に早く広がるので危険です。

煙は有毒ガス（一酸化炭素や塩化水素など）を含んでいます。この有毒ガスを吸い込むと身体が動かなくなったり、急速に死に至ることもあるのでとても危険です。



《火災予防のポイント》

- 手で口と鼻を覆い、煙を直接吸わないよう、できるだけ低い姿勢で避難しましょう。
- 煙で前が見えない場合は、壁に手を当て方向を確認しながら、避難してください。
- 避難する時は、可能であれば燃えている部屋のドアを閉めて逃げましょう。

住宅防火いのちを守る7つのポイント

— 3つの習慣・4つの対策 —

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

住宅防火診断

○定期的に次の防火診断を実施しましょう！

×印が付いたところは火災予防上危険と見られますので、改善しましょう。

項 目	判定	質 問 ・ チェック項目
台 所 (調理器具等)		調理器具を使わないときは、ガスの元栓を閉めているか。
		ガス漏れ警報器があるか。(コンセントはさしてあるか。)
		こんろの周囲や上に、ふきんなど燃えやすいものはないか。
暖房器具		給油は、火を消してから行っているか。
		器具の周りに燃え易い物はないか。
		ストーブで洗濯物等を乾かしていないか。
仏 間		その場を離れるときは、火を消しているか。
		ろうそくの炎で花等が焦げていないか。
		畳、じゅうたんが焦げていないか。
電気器具		コタツやストーブを使わないときは、コンセントを抜く。
		たこ足配線をしていないか。
		コンセントは、しっかりささっているか。
		コードが束ねていないか。 専門員の調査が必要 要 ・ 不
通報・消火・避難		火事・救急の電話のかけ方は、知っているか。
		緊急通報装置(ペンダント)の使い方を知っているか。
		避難しやすいように、整理整頓してあるか。
たばこ		たばこを吸うか。
		灰皿に水が入っているか。
		灰皿の吸い殻は、こまめに捨ててあるか。
地震対策		非常持ち出し品は、準備してあるか。
		たんす等が倒れないように、固定してあるか。
		枕元に履物が置いてあるか。
放火対策		家の周りに燃えやすいものは置いてないか。
住宅用防災器具		条例どおり住宅用火災警報器が設置してあるか。
		消火器を設置している。 型 本
防災製品等		<input type="checkbox"/> カーテン <input type="checkbox"/> じゅうたん <input type="checkbox"/> 寝具類 その他 [] <input type="checkbox"/> なし

《消防からのお願い！》

- お出かけ前、就寝前には、必ず火の元の点検を実施しましょう。
- 安全に避難するため、病人・老人・幼児・体の不自由な方等の就寝場所は、避難しやすい場所にしましょう。
- 初期消火は重要です。消火器や水バケツの用意をしましょう。(悪質な訪問販売にご注意ください。)
- 早い通報・正確な通報のため、電話の近くに住所・氏名・目標物等を掲示しておきましょう。

突然のこんな症状の時には119番!!

高齢者



顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

けいれん

- けいれんが止まらない

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

※迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう!

119番通報メモ

火 事

救 急

現場の住所または目印の建物など

うるま市 _____

「何が燃えているのか？」
「逃げ遅れは？」 「何階建て？」

「誰が」 「何人か」
「どんな状態か」

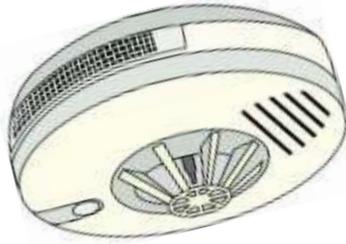
あなたの名前 _____

あなたの電話番号 _____

このメモのほかに通信員の方から詳細を聞かれたり、応急手当ての方法を
依頼されることがあります。

火災のときは、必ず安全な場所で通報しましょう。

住宅用防災機器を備えましょう！



※10年たったら、とりカエル

すべての住宅に「住宅用火災警報器」の
設置は義務です。

「住宅用消火器」を備えましょう。

ほかに住宅用のスプリンクラーや自動消火装置などもあります。

防災品を使用しましょう！



【防災品ラベル】

※ カーテンや寝具など、防災品を使いましょう。

デパート、インテリア専門店、ホームセンター等で販売しており、防災マークが目印です。

お問い合わせ

うるま市消防本部 予防課

電話 098-975-2119

(令和2年4月作成)